

平成30年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 京都府 】

学校名【大山崎町立大山崎中学校】

1 実践テーマ	【Ⅲ・Ⅴ】
2 実施対象者	全校生徒 （1年生 男子72名 女子84名 計157名） （2年生 男子78名 女子66名 計144名） （3年生 男子73名 女子56名 計129名） 合計 430名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名（総合的な学習の時間） ② 行事名（ ） ③ その他（ ） (2) 地域における活動 ① イベント名（ ） ② その他（ ）
4 目標 (ねらい)	身近な京都府出身の講演者から体験に基づく話を聞き、障害がありながら生活し、競技に取り組む苦勞とやりがいを理解する。そして、努力することや、夢をもつことの大切さを学ぶことで、自分の将来について考え、失敗を恐れず、諦めない気持ちをもって粘り強く充実した生活を送ろうとする意欲を育てる。
5 取組内容	(1) サマースクール（大山崎町の特別支援教育の取組）の行事紹介を行い、ボランティア参加の募集を行った。（7月） (2) 事前学習として、読売新聞「信頼の絆結んで挑む京都視覚障害者マラソン」を活用し、視覚障害者マラソンとその伴走者の役割についての学習を行った。（12月） (3) 京都府の公立中学校・高校出身の全盲のマラソンランナーから、障害がありながら社会生活を送る実際と、ブラインドマラソンに挑戦し目標をもって生活する中で考えていることなどを聴き、感想文を書いた。（12月）



6 主な成果	<p>(1) 行事紹介や参加への啓発により、サマースクール当日には、吹奏楽部と個人のボランティアによる参加があった。</p> <p>(2) 視覚障害者が競技を行う上で伴走者の役割が必要不可欠であることを学ぶことができた。(11月末に民放の番組で、講演者と伴走者が取り上げられたのを視聴していた生徒もいた。)</p> <p>(3) 井内菜津美さんの講演会では、自宅から職場まで白杖を頼りに出勤し仕事に取り組む日常生活の実際の紹介のあと、公立中学校で競技に出会い、その後仲間や指導者に支えられながら、様々な困難や苦労にくじけずに、自分がやれるだけの努力を精一杯して、前向きな気持ちをもって努力してきたことを教えていただいた。また、現在、東京パラリンピックを目標に頑張っていることを聞くことができた</p> <p>生徒の感想には、これから白杖や点字ブロックを見かけたときに、自分ができることをしたいというものやオリンピックだけでなくパラリンピックにも注目し応援したいというものが多く見られた。また、講演者の井内さんに対しての応援メッセージも多く見られた。</p>
7 実践において工夫した点 (事業の特色)	<p>(1) 校内の企画推進者が、実際のブラインドマラソンを理解するため、ブラインドマラソン伴走者講習会で、講演者の実際の活動の様子を参観した。さらに、約5キロの伴走体験を行い、映像資料の作成をし、生徒に視聴させた。実際の活動場面に伺い、打ち合わせを行うことができたので、中学生に伝えたいことを事前に詳しく話し合い、整理することができた。</p> <p>(2) 講演内容について、視覚障害者の生活の具体的な様子と競技者として競技との出会い、支えになった体験、今後の目標の紹介で構成することで、生徒にわかりやすい内容となった。</p> <p>(3) 生徒の素朴な疑問を自由に発表できる場面として、質疑応答の時間を確保した。中学生らしい質問が出され、全校生徒にとって、理解を深める良いきっかけとなった。</p> <p>(4) 事後学習で「感想文」を書くことで、今回の講演で学んだことや感じたことを生徒自身が自分との関わりでまとめることができた。</p> <p>(5) 講師の方が、京都府の公立中学校と高校の出身であることから身近な存在からのお話となった。日頃は、全盲であるにもかかわらず、毎日公共の交通機関等を利用しながら、仕事をされ、それと両立しながら競技に取り組んでいることを聞き、その努力に多くの生徒が感動することができた。そして、その前向きな姿勢から、特別な才能が無くても決して諦めない強い気持ちと努力をすれば、夢や目標が叶えられるということを考えることができた。</p>
8 主な課題等	<p>講師の方の試合（アジアパラリンピック出場）の関係で、日程の調整が大変であった。</p> <p>今後は、本事業に関わる取組を分掌、教科と連携して計画的に、また組織的に取り組むことができると良い。</p>
9 来年度以降の実施予定	<p>大変貴重な経験であり、親近感や繋がりをイメージすることができるような講師の方をお招きすることで、生徒のやる気や目標達成に向けた意欲を引き出す効果が大きく期待できるので、来年度以降もぜひ継続したい。</p>